

小1ママと子の放課後生活レポート

小学校1年生の子どもを持つ母親1,500人への調査より

小学校に入学すると、子どもの生活は大きく変化します。この調査では、第一子の子どもが小学校入学にあたって、母親の不安や、子どもの放課後生活の実態をさぐりました。また、子どもの小学校進学は、働く母親にとって「小1の壁」と言われることもあります。子どもの小学校入学にあたり、母親自身の生活の変化についても考察しました。

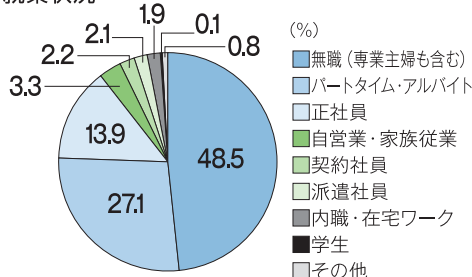
調査概要

- 調査対象：小学校1年生の第一子を持つ母親
- 有効回答数：1,500人 … 有職（産休・育児休業中を含む）770人、無職（専業主婦・学生）730人
- 調査時期：2009年12月25日～27日
- 調査地域：日本全国（平成19年度「学校基本調査」の小学生の児童の人口分布を参考に、地域別の構成比を合わせている）
- 調査方法：インターネット調査
- 調査項目：小学校入学に向けての不安や準備、放課後の過ごし方の実態、学童保育所の利用実態、母親の就労変化、母と子の生活や悩みの変化、子育て支援へのニーズ など

基本属性

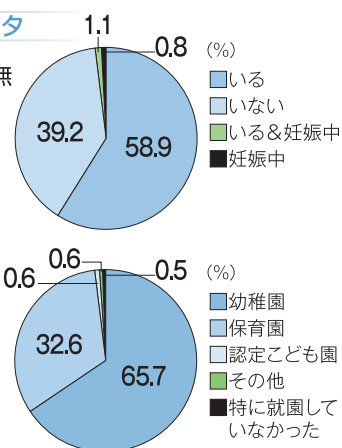
母親のデータ

- 平均年齢 … 35.6歳
- 現在の就業状況



子どものデータ

- 弟・妹の有無
- 入学前の就園状況

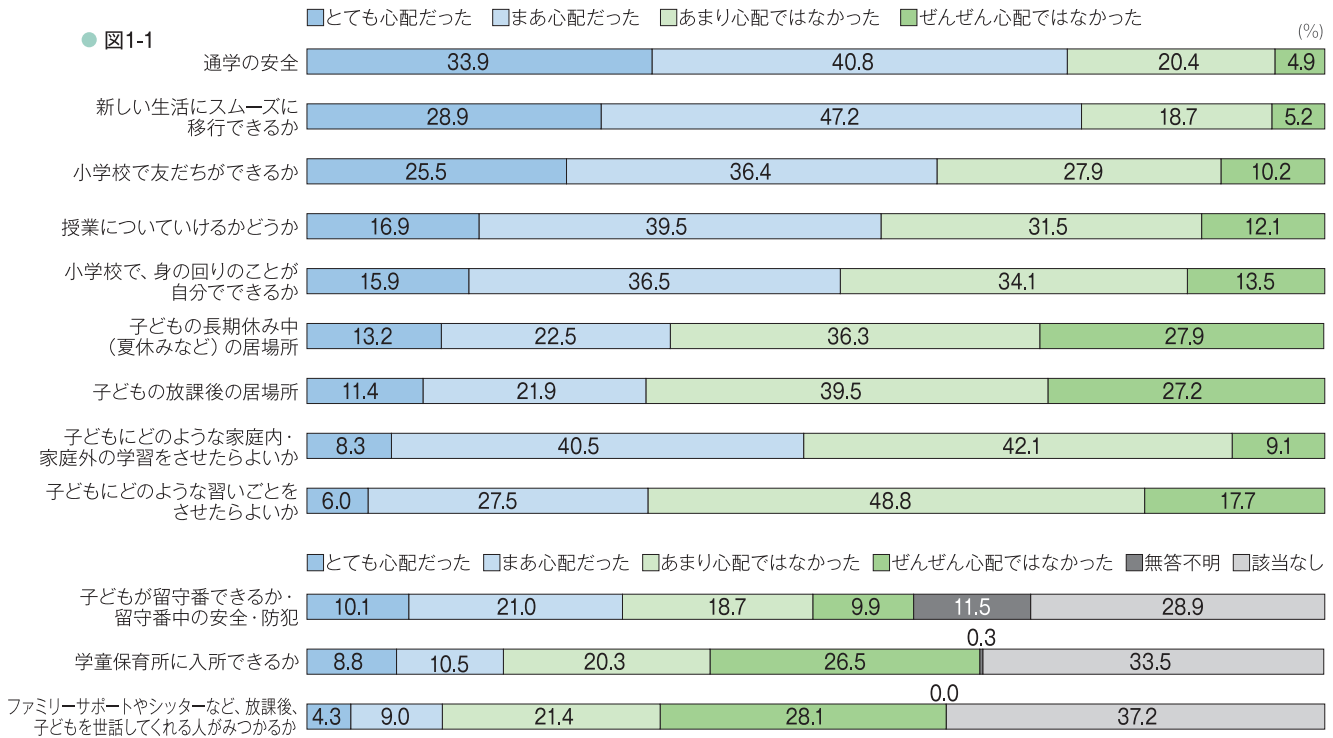


*「第3回子育て生活基本調査」（Benesse教育研究開発センター2008年）などを参考に、有職・無職の割合を調整しています。
*図表の数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

発行日：2010年3月1日
株式会社ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所
発行人：新井健一 編集人：後藤恵子
調査担当：高岡純子・持田聖子
〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
Tel: 03(3295)0294 (10～17時 土日祝日と12～13時除く)
<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/> (このレポートがダウンロードできます)

子どもの小学校入学にあたり、母親が心配だったことは「通学の安全」、「新しい生活にスムーズに移行できるか」。次いで「小学校で友だちができるか」

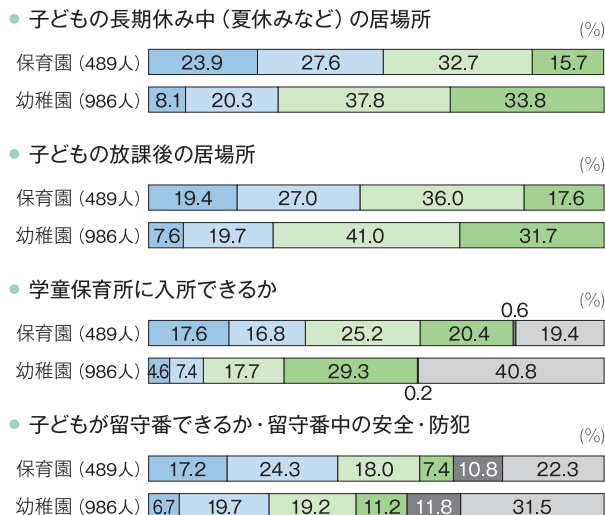
Q お子さんが小学校に入学するにあたり、保護者としてどのようなことが心配でしたか。



※学童保育所やファミリーサポート等の利用がない場合、子どもに留守番をさせない場合は、「該当なし」を選択。
※学童保育所：共働き家庭など、放課後、家に帰っても保護者がいない子どもたち（主に小学校1～3年生）を預かるところ。

子どもの小学校入学前に、母親が心配だったことは、「通学の安全」（「とても心配だった」33.9%＋「まあ心配だった」40.8%）と、「新しい生活にスムーズに移行できるか」（「とても」28.9%＋「まあ」47.2%）で、7割以上の母親が心配したと回答した。次いで、「小学校で友だちができるか」（「とても」25.5%＋「まあ」36.4%）と子どもが小学校生活を順調にスタートできるかどうかを心配している母親が多い。

● 図1-2：入学前の就園状況別

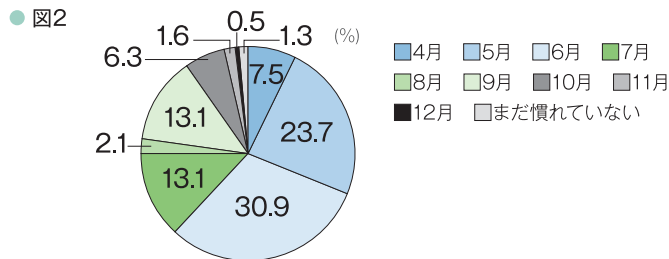


※12項目中、子どもが保育園に通っていた母親と幼稚園に通っていた母親で「とても心配だった」で10ポイント以上の差があった項目。

小学校入学にあたっての母親の心配ごとについて、子どもの小学校入学前の就園状況別に見た。子どもが保育園に通っていた母親（以下、保育園母）と幼稚園に通っていた母親（以下、幼稚園母）で、「とても心配だった」で10ポイント以上の差があったのは、「子どもの長期休み中の居場所」、「子どもの放課後の居場所」、「学童保育所に入所できるか」、「子どもが留守番できるか・留守番中の安全・防犯」の4項目で、いずれも保育園母の方が高かった。保育園母は、共働きや母子家庭など、子どもを預けて働いていたケースが多い。保育園と比べると、学童保育所は退所時間が早いところが多い。仕事を持つ母親にとって、学童保育所の退所後や、長期休み中の子どもの居場所について、心配が多いようである。

子どもが小学校生活に慣れてきたと感じられるのは、5～6月が多い。

Q お子さんが小学校生活に慣れてきたと感じられたのはいつごろですか。

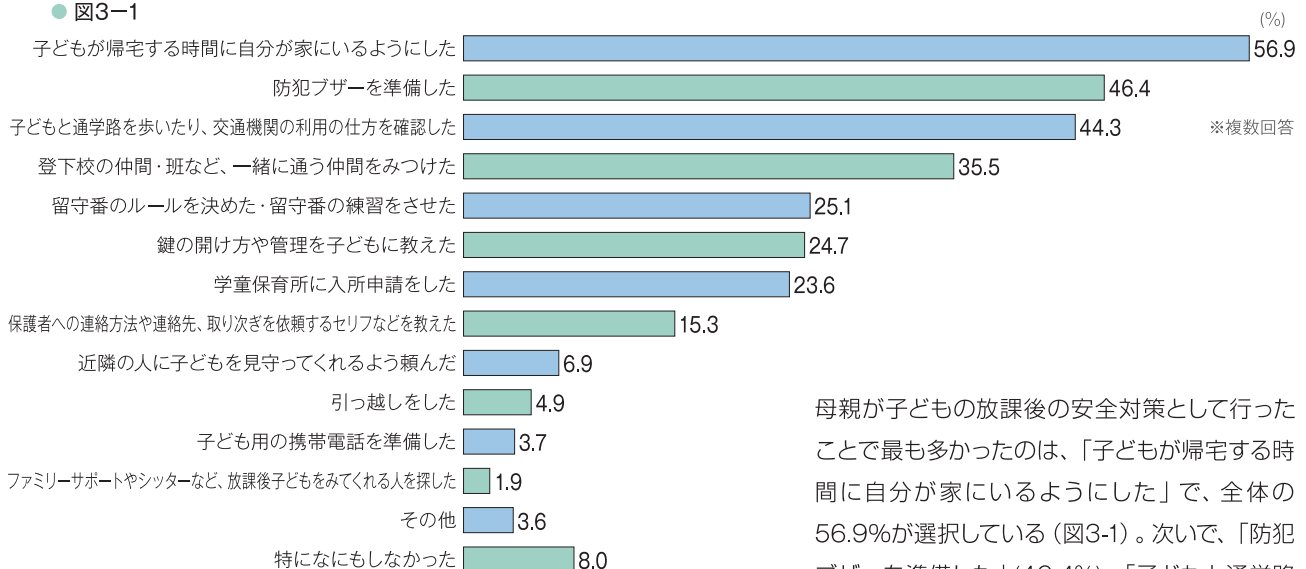


子どもが小学校生活に慣れてきたと感じられたのは、「6月」が最も多く30.9%、次いで「5月」で23.7%であった。一般的に授業も通常サイクルになり、給食も始まり、小学生としての生活スタイルが固まるころである。「4月」(7.5%)と「7月」(13.1%)も加えると、7割強の母親が、1学期の間に、子どもが小学校生活に慣れてきたと感じている。

放課後の安全対策として、母親の6割弱が、子どもが帰宅する時間に自分が家にいるようにしている。

Q お子さんの小学校入学にあたり、放課後の安全確保を目的として行ったことについて、あてはまるものを全て選んでください。

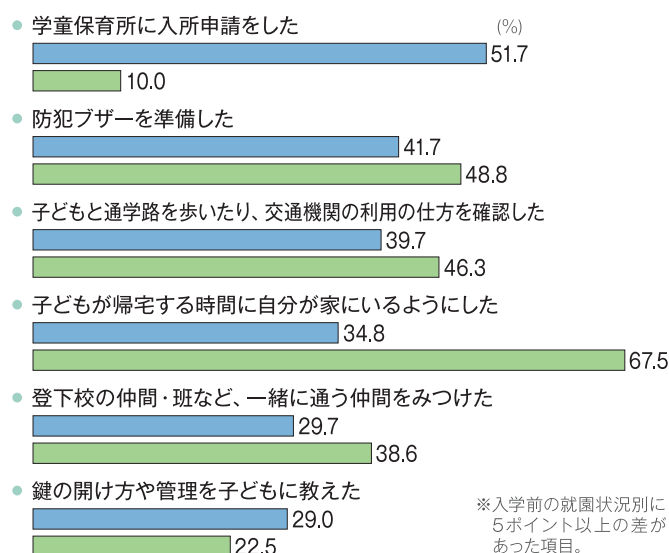
● 図3-1



母親が子どもの放課後の安全対策として行ったことで最も多かったのは、「子どもが帰宅する時間に自分が家にいるようにした」で、全体の56.9%が選択している(図3-1)。次いで、「防犯ブザーを準備した」(46.4%)、「子どもと通学路を歩いたり、交通機関の利用の仕方を確認した」(44.3%)など、下校途中の通学路での安全対策を行った母親が多い。

放課後の安全対策について、子どもが保育園に通っていた母親(以下、保育園母)と幼稚園に通っていた母親(以下、幼稚園母)で5ポイント以上の差があったものを見ると(図3-2)、保育園母の方が多かったのは、「学童保育所に入所申請をした」、「鍵の開け方や管理を子どもに教えた」であった。幼稚園母の方が多かったのは、「子どもが帰宅する時間に自分が家にいるようにした」、「防犯ブザーを準備した」、「子どもと通学路を歩いたり、交通機関の利用の仕方を確認した」、「登下校の仲間・班など、一緒に通う仲間をみつけた」であった。

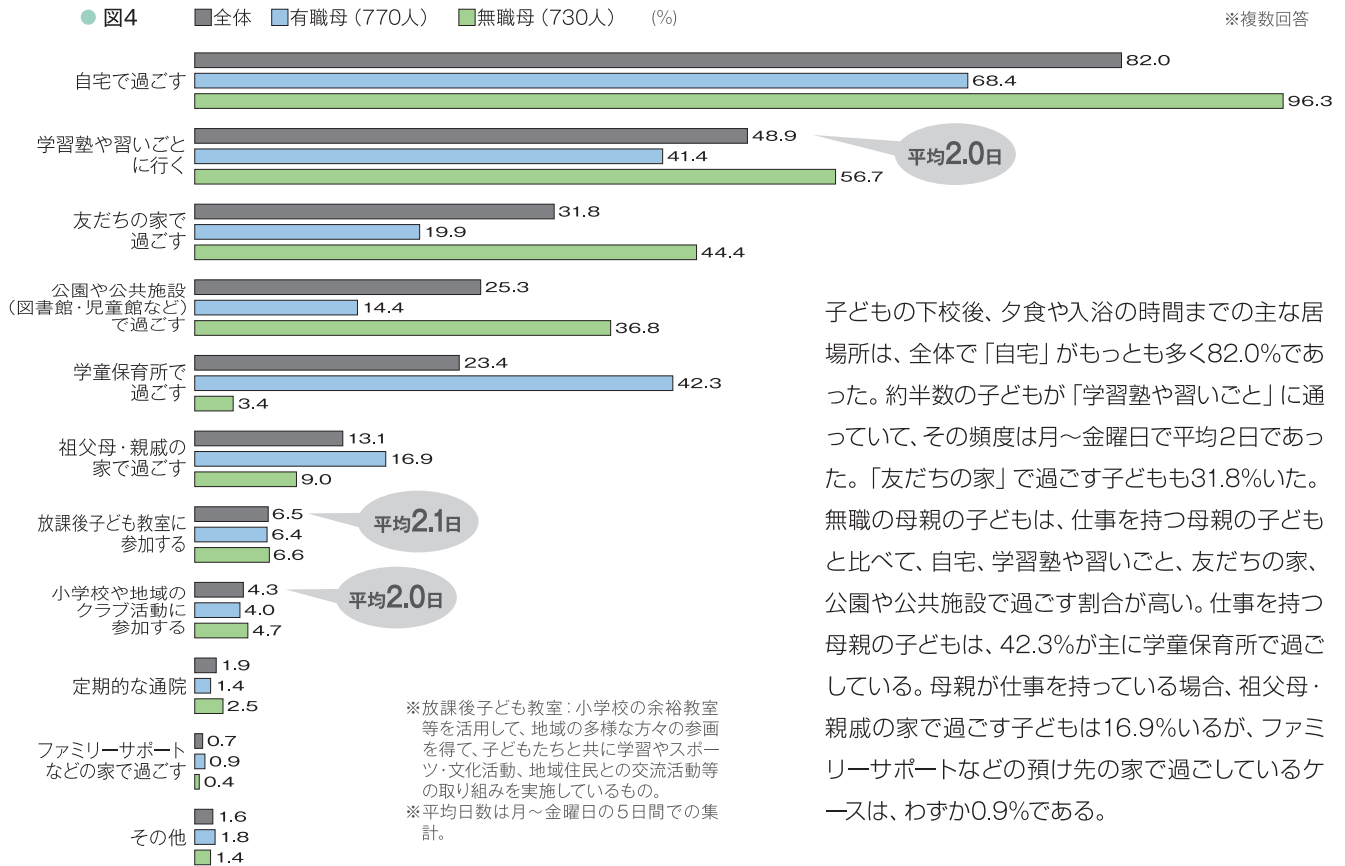
● 図3-2: 入学前の就園状況別



※入学前の就園状況別に5ポイント以上の差があった項目。

1年生が下校後、夕食や入浴の時間まで主に過ごす場所は、自宅が8割、学習塾や習いごとが5割、友だちの家が3割。学習塾や習いごとは、平均2日。

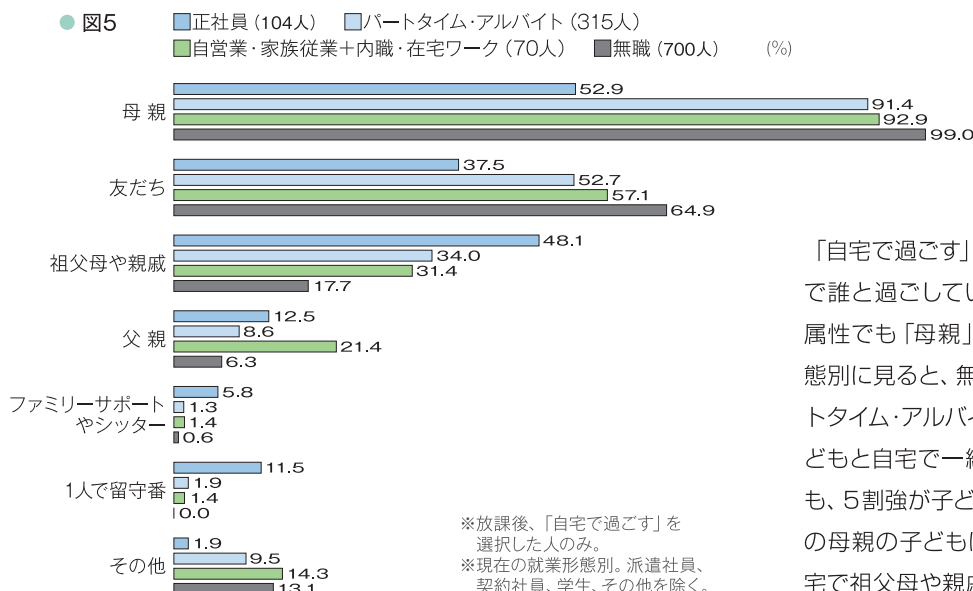
Q お子さんの下校後から夕食や入浴の時間までの主な居場所と過ごし方について、あてはまるものを全て選んでください。



子どもの下校後、夕食や入浴の時間までの主な居場所は、全体で「自宅」がもっとも多く82.0%であった。約半数の子どもが「学習塾や習いごと」に通っていて、その頻度は月～金曜日で平均2日であった。「友だちの家」で過ごす子どもも31.8%いた。無職の母親の子どもは、仕事を持つ母親の子どもと比べて、自宅、学習塾や習いごと、友だちの家、公園や公共施設で過ごす割合が高い。仕事を持つ母親の子どもは、42.3%が主に学童保育所で過ごしている。母親が仕事を持っている場合、祖父母・親戚の家で過ごす子どもは16.9%いるが、ファミリーサポートなどの預け先の家で過ごしているケースは、わずか0.9%である。

子どもが放課後、自宅で一緒に過ごす人は、母親が最も多い。仕事を持つ母親も、半数以上が子どもと一緒に過ごす時間を持っている。

Q お子さんは自宅で放課後、誰と過ごしますか。あてはまる人を全て選んでください。 ※複数回答

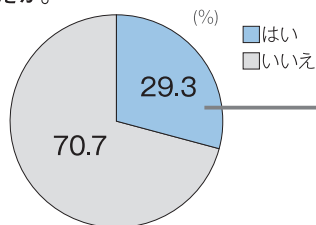


「自宅で過ごす」と回答した人には、子どもが自宅で誰と過ごしているか、複数回答できた。どの属性でも「母親」が最も多かった。母親の就業形態別に見ると、無職の母親や、自営業、内職やパートタイム・アルバイトなどの母親は、9割以上が子どもと自宅で一緒に過ごしている。正社員の母親も、5割強が子どもと一緒に過ごしている。正社員の母親の子どもは、無職の母親などと比べて、自宅で祖父母や親戚と一緒に過ごす割合が多い。

学童保育所に入所申請をした人の9割弱が、現在、実際に利用している。平日は5日利用し、17時台に退所する子どもが多い。

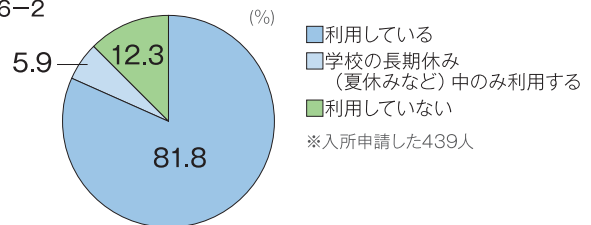
Q お子さんについて、学童保育所への入所申請はしましたか。

● 図6-1



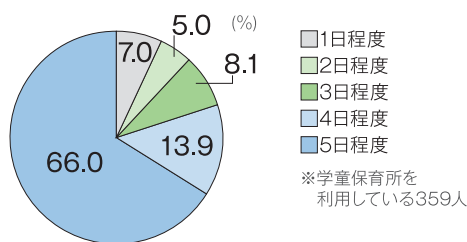
Q おさんは、現在、学童保育所を利用していますか。

● 図6-2



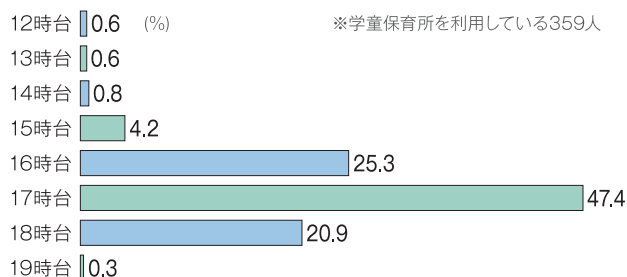
Q 学童保育所は、週（月曜日～金曜日）に何日間利用していますか。

● 図6-3



Q おさんが、月曜日～金曜日の放課後、学童保育所を退所するのは何時ごろですか。

● 図6-4

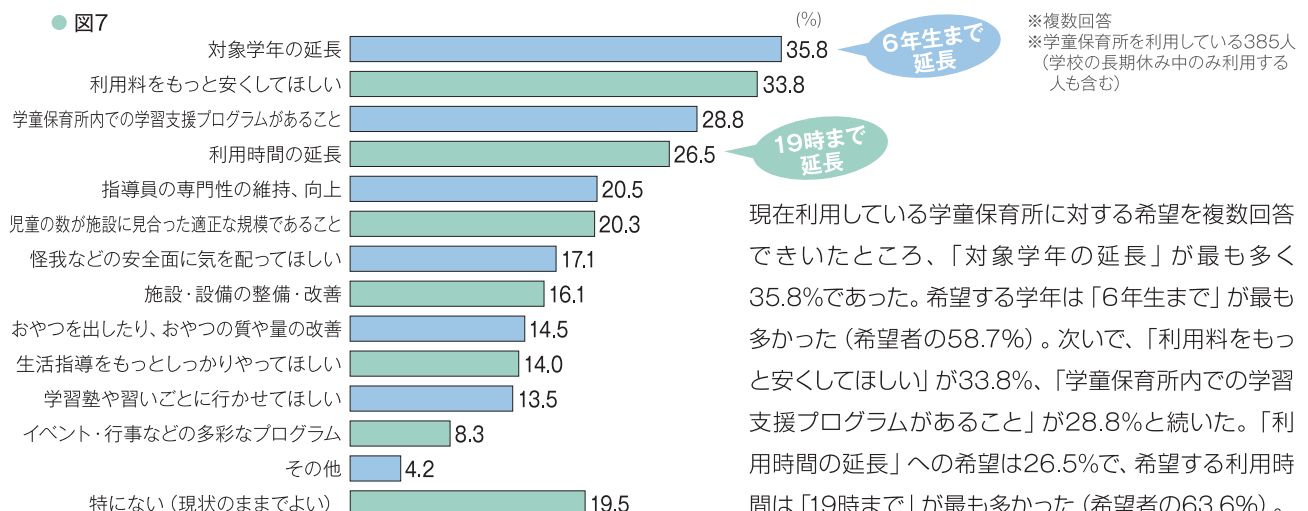


子どもの学童保育所に入所申請をした人は、全体の29.3%であった（図6-1）。その内、現在、学童保育所を利用しているのは81.8%、学校の長期休み中のみ利用するのは5.9%であった（図6-2）。入所にあたり選考を行う場合もあることから、利用していない12.3%の中には、入所ができなかった待機児童も含まれていると考えられる。学童保育所の利用実態は、平日（月曜日～金曜日）では、5日程度の利用が最も多く、66.0%であった（図6-3）。平日、子どもが学童保育所を退所するのは、17時台が最も多く、47.4%であった（図6-4）。

母親の学童保育所に対する希望は、「対象学年の延長」が最も多く、6年生までの利用の希望が多い。

Q おさんが通っている学童保育所について、希望はありますか。あてはまるものを全て選んでください。

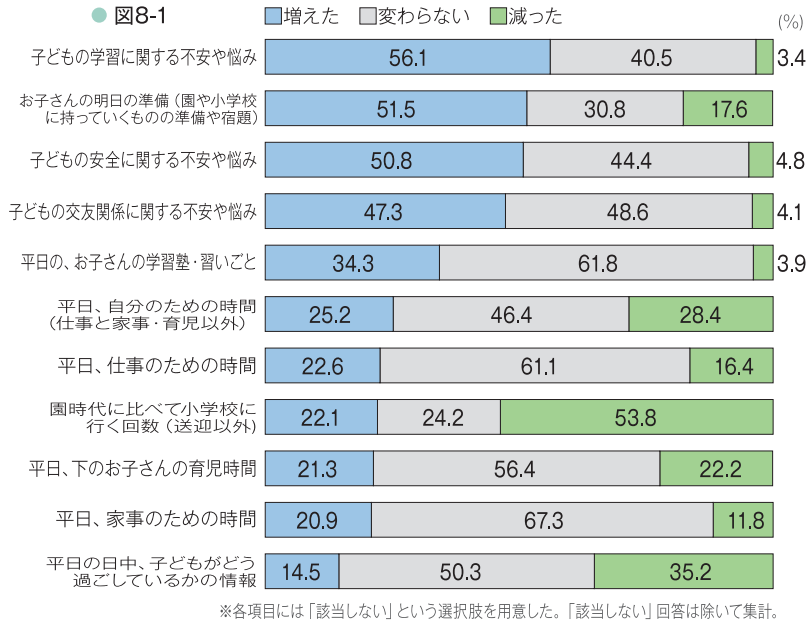
● 図7



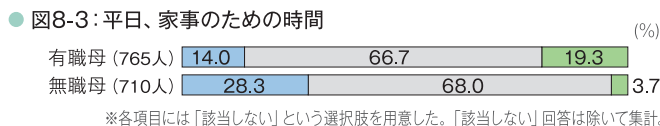
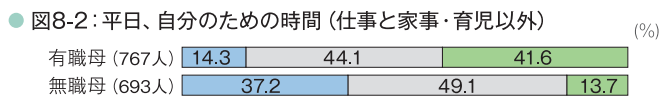
現在利用している学童保育所に対する希望を複数回答できいたところ、「対象学年の延長」が最も多く35.8%であった。希望する学年は「6年生まで」が最も多かった（希望者の58.7%）。次いで、「利用料をもっと安くしてほしい」が33.8%、「学童保育所内での学習支援プログラムがあること」が28.8%と続いた。「利用時間の延長」への希望は26.5%で、希望する利用時間は「19時まで」が最も多かった（希望者の63.6%）。

小学校入学前の生活と比較して増えたのは、 子どもの明日の準備と、子どもの安全に関する不安や悩み。

Q お子さんの小学校入学前と入学後で、あなたとお子さんの生活はどう変わりましたか。

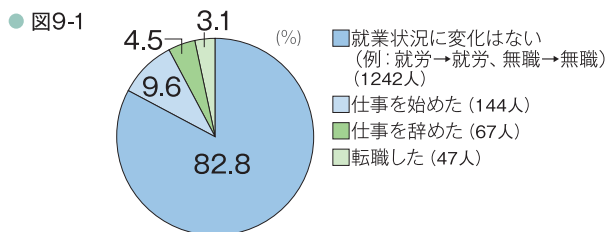


小学校入学前と後で、母親と子どもの生活や母親の悩みの変化をきいた。増えたものは、小学生になることで新たに出てきた悩みであるが「子どもの学習に関する不安や悩み」が56.1%で最も多かった。次いで、「お子さんの明日の準備」(51.5%)であった。他には、子どもの安全や交友関係に関する不安や悩みが増えたと感じる母親が多い。逆に、入学後減ったものは、「園時代に比べて小学校に行く回数(送迎以外)」や、「平日の日中、子どもがどう過ごしているかの情報」であった。生活や心配ごとについて、仕事を持つ母親と無職の母親で、結果に顕著な差があったものは、「平日、自分のための時間」と「平日、家事のための時間」であった。「平日、自分のための時間」は、仕事を持つ母親の41.6%が「減った」と回答したが、無職の母親はわずか13.7%で、逆に「増えた」と回答した割合が37.2%であった。家事のための時間についても同様の傾向であった。

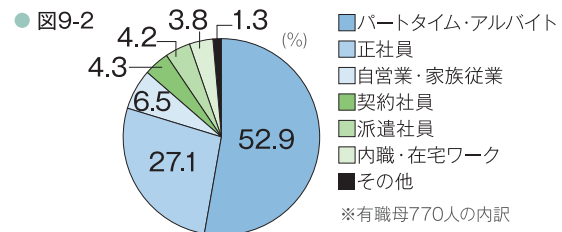


仕事を持つ母親は、パートタイム・アルバイトが最も多く、52.9%。 現在、働いている母親全体の9割が、18時台までに帰宅。

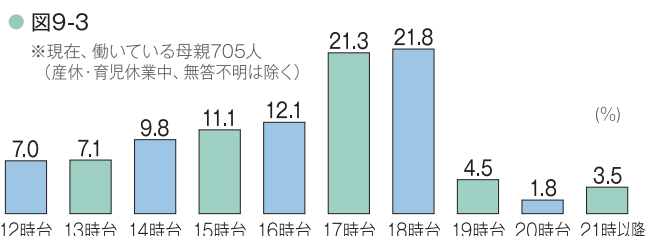
Q お子さんの小学校入学後、現在までの間に、あなたの就業状況に変化はありましたか。



Q あなたの現在の就業状況について、あてはまるものをひとつ選んでください。



Q あなたが仕事をしている日の平均的な帰宅時間を教えてください。

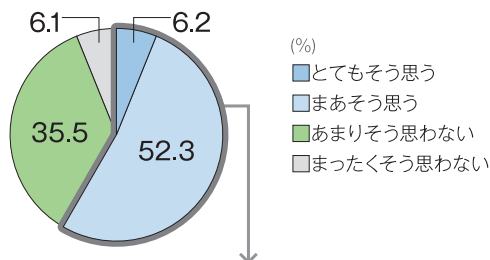


子どもの小学校入学後、現在までの間に就業状況に変化があったかを母親全体にきいてみると、82.8%が「就業状況に変化はない(例: 就労→就労、無職→無職)」と回答した。現在、仕事を持つ母親の就業形態は、「パートタイム・アルバイト」が52.9%で最も多い。現在、働いている母親に平均的な帰宅時間をきいたところ、「18時台」が21.8%で最も多かったが、一方、子どもが下校する14時台までに帰宅する母親も23.9%いた。

6割弱の母親が、これまでよりも子育てから手を離してみようと思っている。

Q お子さんが小学1年生になったことで、「これまでよりも子育てから手を離してみよう」と思われるようになりましたか。

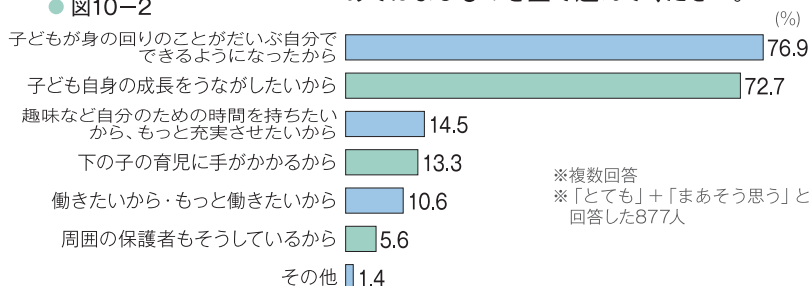
● 図10-1



全体で6割弱の母親が、子どもが小学生になったことで、これまでよりも子育てから手を離してみようと思っている。その理由は、「子どもが身の回りのことがだいぶん自分でできるようになったから」(76.9%)と、子ども自身の成長を実感したことから導かれている。また、「子ども自身の成長をうながしたいから」(72.7%)と、母親の方から積極的に子どもの成長をうながすために手を離そうとも考えているようである。

Q そう(「とても」+「まあそう思う」)お答えになった理由としてあてはまるものを全て選んでください。

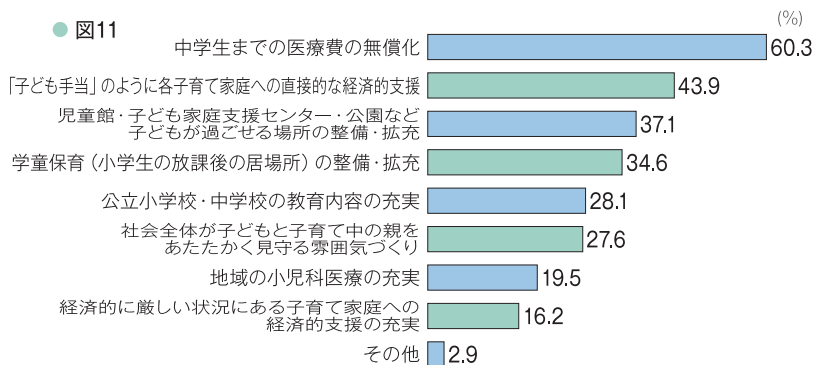
● 図10-2



子育て支援の重要課題は、「中学生までの医療費の無償化」が第1位。次いで「『子ども手当』のように各子育て家庭への直接的な経済的支援」で、経済的な支援を重要視している。

Q より子育てしやすい環境を整えるために、あなたは子育て支援策について、どのようなものが重要だと思いますか。下記の項目から3つまで選んでください。

● 図11



子育て支援策について、9項目のうち重要なものを3つまで選んでもらった。第1位は、「中学生までの医療費の無償化」で、母親全体の60.3%が選択した。第2位は「『子ども手当』のように各子育て家庭への直接的な経済的支援」(43.9%)で、経済的な支援を求める声が上位となった。次いで、「児童館・子ども家庭支援センター・公園など子どもが過ごせる場所の整備・拡充」(37.1%)、「学童保育の整備・拡充」(34.6%)と、子どもが放課後などに小学校以外で過ごす場所の整備・拡充を重要視している。

調査全体をふりかえって

第一子の子どもの小学校入学にあたり、多くの母親は、「通学の安全」と「新しい生活にスムーズに移行できるか」を心配ごととして挙げた。放課後の安全対策として、子どもが帰宅する時間に母親自身が家にいるようにしているという回答が最も多く、全体では56.9%だった。

現在、働いている母親でも、子どもが下校する14時台までに帰宅する人は全体の約4人に1人いた。入学前は、安全以外に学習や交友関係などの不安や悩みを感じているが、1学期が終業する7月までに、7割強の母親が、子どもが小学校生活に慣れてきたと回答している。